

都の取組状況

- 平成20年、東京都は沿川10区市等と連携し、多摩川左岸の河川敷等を活用し、ウォーキングやランニングなどが楽しめる連続したコース「たまりバー50キロ」を設定。同年、紙マップを配布。
- 令和7年3月に策定した「多摩のまちづくり戦略」において、多摩川の河川空間の魅力向上を図ることや、近接する京王多摩川駅周辺等をTAMA拠点形成プロジェクトに位置付け。
- 現在、コース利用者の更なる安全性・快適性の向上に向けて、関係者とともに通行ルールに関する検討等を実施中。

参考リンク：① たまりバー50キロHP

https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/kotsu_butsuryu/doromou/ninka/tamariver

② 多摩のまちづくり戦略HP

<https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/toshiseibi/2025-04-15-102434-000>

現状の課題

- 紙地図による運用：位置情報やコース案内、利用者ニーズに合わせた各種施設の案内、沿川で開催されるイベント等の情報発信に対応しきれていない。
- 多摩川の魅力発信：花火大会やマラソンイベント、マルシェ等で活用される機会もあるが、日常的に活用される・行ってみたいと思われる河川空間としての魅力発信が求められる。
- 沿川来訪者の拡大：地域にお住まいの方々の利用が多く、幅広い世代の多様なニーズに対応したコンテンツの付与・拡充が必要。

期待するサービスの例

- ① AIやオープンデータを活用し、利用者に最適な周遊ルートを提案するガイドサービス
- ② 地域や店舗が最新情報を発信できる参加型デジタルマップサービス
- ③ 鉄道・バス・シェアサイクル等と連携し、移動そのものを楽しめる周遊サービス
- ④ 音声ARやXRを活用し、安全で快適なまち歩きを支援するスマートナビサービス

デジタルマップの普及促進

位置情報やコース周辺の主要施設、地域観光資源、イベント情報等を効果的に発信
⇒水辺のにぎわいを沿川のまちへと広げ、地域の魅力向上や更なるにぎわい創出に結びつける
＜新しい発見・体験を享受できる新たな河川空間を創出＞

